

# SAK だより

“おお汗こ汗”

平成10年  
かながわ  
ゆめ国体



神奈川県スキー連盟  
横浜市神奈川区台町16-1  
ソレイユ台町 407号室  
電話 045 (311) 8907  
FAX 045 (324) 6966  
発行者: 柴田伸彦  
編集責任: 小松良昭



## 第50回国民体育大会冬期大会

# ふくしま国体

友よ ほんとうの空にとべ!



第50回国民体育大会冬季大会スキー競技会は、2月19日から22日までの四日間、「友よほんとうの空にとべ」のスローガンのもと、福島県猪苗代町にて開催されました。  
19日午後1時より、猪苗代小学校運動場にて皇太子殿下、妃殿下をお迎えして開会式が行われました。開会式に先立ち、阪神大震災で亡くなられた方々に黙禱をささげました。

## 猪苗代国体報告

長浜一年選手が三位入賞

翌20日より競技会が開始され、クロスカントリー競技成年男子Aでは、長浜一年選手が第三位入賞し、ジャイアントスラローム競技成年女子一部Bで、水野潤子選手が七位に入賞するなど健闘した。

西館健吾選手が大健闘

21日はジャイアントスラローム競技成年男子二部に出場した、小池徹選手が第五位。コンバインド競技成年男子一部Cに出場した、西館健吾選手は前日までの発熱を押しのけ、ジャンプ競技並みの出場で、ジャンプ競技並びにクロスカントリー競技を頑張り第七位と健闘した。



長浜 一年(川崎シークラフト)本日の全日種目史上2人目の全種目選手権達成!



昨年の7月より新体制でスタートし、シーズンを終わることができました。不況・不況とさわがれ、影響が心配された行事も、おおかたは例年と変わらず運営されました。  
唯一、12月に実施される予定のミズノ杯では、雪不足による延期のため、協会やクラブ行事と重なるなどのアクシデントが生じる結果となり、皆様にご迷惑をおかけすることとなりました。  
また、前半の行事中で怪我

## 成績

- 入賞者4名
- 成年男子A クロスカントリー 3位 長浜 一年
- 成年男子二部大回転 5位 小池 徹
- 成年女子一部B大回転 7位 水野 潤子
- 成年男子一部Cコンバインド 7位 西館 健吾
- その他上位者
- 成年女子一部A大回転 11位 吉田美輝子
- 成年女子二部大回転 10位 鈴木かおり
- 成年男子一部C大回転 12位 大森 陸弘
- 成年男子一部B大回転 11位 柳 隆晃
- 成年男子二部クロスカントリー 13位 相沢 博
- 成年女子二部クロスカントリー 12位 鈴木真理子
- 成年男子一部C 9位 西館 健吾
- 総合成績 天皇杯 14位 皇后杯 11位

## 訃報



## 小林俊輔さん急逝

追悼  
佐藤 嘉彦  
多くの人から「俊さん」の愛称で慕われた、当県連の元副会長で藤沢スキー協会の会長である小林俊輔さんが、去る1月21日小海リエックススキー場で急逝された。  
小林さんは、藤沢市民スキー選手権大会のため当地を訪れ、コースの下見を兼ねてスタート地点に立った所、かねてから注意を払っていた心臓発作が起こり、現地のパトロールや医師の介護もむなしく、帰らぬ人となってしまった。享年76才だった。

小林 俊輔  
(享年七十六才)  
神奈川県スキー連盟顧問  
副会長を昭和58年から昭和63年まで務める。

小林さんはもと山が好きなで、多くの山を征服し、元の勤務先のシロキ時代には藤沢に転じてから本格的にスキーに打ち込まれた。後輩を指導するには自分が指導員にならなくてはと、50を超えてから昭和45年準指導員に挑戦、48年には指導員に挑戦し、これも見事に合格を果たし、多くの指導員を育成するとともに、県連の要職(副会長)や地元第三代会藤沢協会会長を長く努められた。  
あまりの突然の出来事に関係者は信じられないまま、多くのスキーヤーにみとられ、23日しめやかに葬儀が執り行われた。心から御冥福をお祈り致します。

## 法人化推進室

委員会だより

法人化活動は、県連内の意志統一が概ね完了し、今年度は監督官庁である、県教育庁総務室への予備審査依頼が始まり、いよいよ最後の大きな関門に向かい始めた。  
正規の手続きをご紹介すると、まず予備審査の依頼予備審査の承認申請申請審査承認とプロセスが進むが、まず第一歩目の予備審査のための官庁のヒアリングが具体的なスタートである。  
昨年二月に我々の上部団体である県体協との協議を開始し、種々のヒアリング・指導を経て、八月に総務室との第一回ヒアリングにこぎつけた。  
公益性の有無、法人化の必要性など改めての質問に際しながら、意外にも、財団化の方向で検討する様な方向づけを与えられた。  
何度かのヒアリングの結果現在抱える問題や、作業内容を整理すると、  
一、財団法人として認可を得るための資金調達をどうするか。  
二、寄付行為(規約のこと)の整備。特に公益性との関連から、事業の目的と実際との整合など現実的な部分の整備。  
三、会員・クラブとの意志疎通。県当局では組織をあげての合意を求めている。  
など、細部にわたるものを含めると対応しなければならぬ項目はまだ多く、会員各位のご理解とご支援をお願いしたい。  
特に、資金的には現有資金では不足しており、今後、執行面での合理化・協賛会員の拡大など手当てし、せっかく法人化する事を決め、財団も夢でなくなったこの機会に、何とか実現させたいと思っ

## 執行を終えて

理事長 柴田 伸彦

行政指導もあり、早急に対応していきたいと考えています。  
一万人会員への組織拡大  
現在のところ、当連盟に加入する登録会員は8千名に達しようとしています。そこで、1万名の会員数を目標に組織の拡大を図り、さらに多様化  
若い同好の志」に着目して、我々の組織との接点を見つけてための施策を、各行事に併設して実施する企画を検討しています。  
新たな部門と競技会  
近年は開催される競技会も多様化し、従来からのアルペン及びノルディックのみならずフリースタイル、スノーボード、さらにマスターズ等の競技会についても早急に検討する必要性が生じてきました。  
これらのニーズにこたえるべき、新たな部門の開設並びに組織を編成しなければならぬと考えています。しかし、これらの新しい分野に関する情報もまだまだ不足し、調査及び研究を進めています。これらの情報をお持ちの方に協力を頂

なるウインタースポーツの動向に即応する事業も検討されています。  
その一つに、県内には50箇所ほどの大学のキャンパスが点在し、同好会及び研究会等のスキー組織として活動している。この「スキーに親しむ

一般的にスポーツ団体は社団より財団の方が形態として望ましい。また我が国が基金が不足することから財団を断念し、社団を進めてきた経緯を説明、基金は暫定で一般で云う金額より大幅な低額で、特定期間なら認可を受けられることも判った。  
委員会としては、社団から本来の理想としていた財団をも視野に入れることを審議し、理事会の承認を得た後、各協会の会長・理事長、更には県連の顧問・参与の方々にもお集まりいただき、状況説明・意見交換のうえ、財団を中心にして法人化を進める事で承認を得られた。

# 15th インタースキー'95 野沢温泉大会



## 心のふれあいと感動に躍った8日間!

### 第15回インタースキーを振り返って

代表団総監督 平川 仁彦



はじめに

第十五回インタースキーが無事終了しました。御助力いただいた各位に御礼申し上げます。技術についての原稿依頼でしたが、近々にオフィシャルな報告書が発刊されますので、ここでは、極めて私的な見解になりますが、インタースキーの動向と日本のスキー界のスタンスという見地から思うことを記させていただきますことにします。

日本の立場が変わった

日本でのインタースキー開催は二度目でした。今回は史上最大規模のイベントになったのですが、その内容を見る



とインタースキーそのものが大きく変わったことに気がきます。かつて、蔵王で行われた内容と比べてみると世界のスキー界の動向がよく解ります。蔵王大会の時は、日本のスキー界が先進諸国に追いつくことを至上の課題にしていた頃です。組織的にも、技術的にも、これから成熟期を迎えようとしていた時期でした。従って、当時はインタースキーで何か提言をするというよりなリレー的な立場は有りませんでした。最大限の主張をし、世界に存在を認知させることが目的の参画の仕方だったと言えます。

今回のインタースキーでは

日本のスキー界は重要な責任を負わされていたと思います。それは、既にスキー先進国の仲間入りを果たした日本が今度は世界のスキーの活性化に向けて、また、インタースキーそのものの将来に対して考え方なり具体的な施策を示さなければならぬ立場になったということです。単に、参加する立場から、インタースキーの舵とるをする一員としての立場に変わったのです。

インタースキー新時代の幕明けが日本が始まる、これが今回のインタースキーだったわけです。

インタースキー新時代とは  
インタースキーは既に四十四年の歴史を重ねてきました。事の始まりはオーストリアの文部省がスキー指導者の情報交換と親睦の場の必要性を各国に呼びかけたことと聞いています。

大戦後の混乱が落ち着きを見せた頃、スキーの産業の秩序を取り戻す必要性がスキー国

それぞれに有ったのだと思います。特にフランスの制圧下にあったオーストリアのチロルは、新たに「オーストリアスキー術」を看板にかかげ、スキー産業を立て直す国際戦略が不可欠だったと言えるでしょう。従って、インタースキーの真の生みの親は、日本のスキー界にも多大な足跡を残した故、クルッケンハウザー教授であるといっても過言ではありません。

インタースキーの発足当初から起ったことは激しい技術論争だったと聞いています。フランス派、オーストリア派に二分しての技術面での競い合いは、世界の技術分析と指導法の開発に大きく寄与したと言えるのではないのでしょうか。技術を中心とした熱を帯びたインタースキー活動は蔵王大会の直前まで続くことになりました。

各国の先鋭的な技法の分析や開発の時代が終わると次に指導方法論の競い合いが始まりました。技法のまともにはインタースキーの中ではなく競技スキーの世界で成されたと言えます。トップレベルのレーサーの技術は次第に共通性が出てきて必然的に世界のスキーは頂点に於いて「ひとつ」になるという考え方が定着したわけです。この傾向を受けて、当時のインタースキー活動の中には、世界の指導法の統一化を模索する方向性が生れたのです。特にスキー客を共有するヨーロッパ内では、その必要性があったと思えます。こうした背景があつて、インタースキーの第二時代は、指導法の優位性を競う方向へと変わっていききました。人工的な練習コースの研究や、教習器材の開発、ショートスキーの開発など、多彩なアイデアにふれることができた時代です。用具の研究とも

## インタースキーレポート



野沢の山々にファンファーレがこだまする。世界33の国から集うインタースキーは、観客の大きな拍手に迎えられ、アンドラそしてアルゼンチンの代表団が入場する。最後に佐藤正人旗手を先頭に日本代表団が入場し大会の幕は開けられた。



国際会議場でのレクチャーは、スキー指導・運営として近年の自然と



交流と親睦を深めようと開催された、歓迎パーティーと我満デモの司会で大いに盛り上がったデモパーティー。



8日間の最後を飾る閉会式では、野沢温泉村から次期開催地であるノルウェーのバイストレーンへとインタースキー旗が引き渡される。



併せて、世界の指導法の合理化が著しく進んだわけですが、しかし、指導法の統一化は実現しませんでした。それぞれの国の立地が余りにも違っていたからでしょう。

現在、ヨーロッパ、アメリカ、日本が世界の三大スキーマーケットとされています。そして更に北欧、南半球のエリアが急速に大きなマーケットに成りつつあります。それぞれの地区において、スキー活動が活性化すると同時に、その環境をとりまく諸問題が発生してきているわけですが、現在のインタースキーの機能は、そうしたスキー環境の成り立ちを世界規模で見て、環境の保護と健全な育成に具体的な施策を持つ必要性が出てきていると言っていることなるでしょう。

インタースキーの変遷を、こうして振り返ってみると、時間の経過を要する一つの事業が完結に至るプロセスとして見ることができると思いますが、今は、更に新たな方向性を指向、模索しなければならぬ時にあるわけです。第十五回インタースキーは、その第一歩を踏み出す機会だったと言えるでしょう。

の為に何が出来るか、という課題を真剣に考える機能があることを見逃してはなりません。日本の発表は、そこに向けて、ひとつの考え方を示したわけです。それは、共働して共に前進が大切、という理念で、これまでのスキーの平準化に向けた活動の実態を発表したのですが、今、まさにインタースキーを形成する国々が一歩前進して、本質的なところで協調の組織をつくること

# 各部だより 普及部

普及部長 山田 隆

## 新たな形態の研修会

雪には恵まれたものの、関西大震災、不況などの社会的環境の悪化により、役員の行事参加に影響がでるなど厳しい運営となりました。しかし、一部の献身的な専門委員の協力に加え、会員の皆様のご助力により滞りなく事業を執行することができました。

昨年からの課題でもある講習会の質の向上、講師及び正指・準指の受験者の技術力向上については、思うようには進まず、次年度も引き続き努力していきたいと考えています。



義務的に出席する傾向がみられる研修会と技術論だけが先行する指導体質から、スキーの本質である自然との対話と楽しさを伝達することができ、指導者を育て、さらに的確な指導と技術の能力を向上させることのできる研修会を実施する。そこで12月の車山のよう、多くの指導員が集中したために生じる弊害を直視して、ゆとりある環境で研修できるように改善しなければならぬ。

## SAJ情報

### スノーボードに関するレポート

佐々木 峻

近年、注目を浴びているスノーボードは、94年に国際スキー連盟の総会において、種目として正式に取入れる決定がなされました。

初代委員長に就任

全日本スキー連盟もその決定を受けてスノーボード委員会を発足し、いみじくも初代委員長を小生が引き受けることになりました。まずは、スノーボードの勉強から始めるつもりでみていましたが、長野オリンピックの種目として話を持ち上がり出してからは

その余裕はなくなり、その選手育成を開始

現在のところ長野オリンピック組織委員会は正式に種目として発表はしてありませんが、今秋にも発表されるようであり、SAJは、5月の理事会で、強化、運営、教育の三本の柱のもとに本格的に選手育成を開始いたします。

95シーズンには3回の国際レースを開催しました。福岡県アルムスキー場で開催されたワールドカップには、外国選手が60人も参加し盛大なも



らなにと考えます。この趣旨についてご理解いただき、車山・五竜または3月車山の各会場に分散するなど、参加方法について検討していただくことを期待します。

技術選で健闘

野沢温泉スキー場で開催された全日本スキー技術選では、当県連から代表選手として出場した、川崎信之君と永吉雪絵さんの二人が、準決勝出場の快挙を果たしました。数年来、予選通過を目標に実施した基礎スキー強化合宿の成果とともに、選手の努力による待し声援をお願いいたします。

来るシーズンも、より活発な行事執行を目指していきたくて、今年度の執行を無事完了させることが出来ました。

3月に開催された日本選手権には、当県在住の選手が22人も参加し、その中からナショナルチームに残る可能性のある選手が3名もおります。この日本選手権には全国で4番目の選手が参加数でした。

SAJの取り組みには、2つの柱があります。一つは選手の手育成です。長野オリンピックのホスト国として何となくでもメダルが欲しいところですが、幸いにもセンスのある選手がおります。そしてもう一つは、教育普及です。時々マナーの点で心配されるボータ

のスキー場に於けるルールをどうするかです。

日本からの代表として参加した、5月16日からドイツのオーバースドルクでのカレンダー会議は全種目について行われ、やはり一番の注目はスノーボードでした。

私も長野オリンピックへの方向づけを説明し、委員会は今後特徴のある種目の開発を提案することで一致しました。スノーボードにしかできない種目の開発に期待して下さいます。そして、ボーダーが多く強い神奈川県に皆が注目と期待を注いでいることを知って下さい。



## 安全対策の必要性

スキー傷害を考える時、スキーは自然の中で行われるスポーツであることを念頭に置かなければならない。

①スキー場の滑走条件は、斜面やコースはスキー場によ

って違なり、さらに時間や天候の状態が雪質が刻々と変化する。

②スキーヤーの技術レベルは、初心者から上級者がさまざな速さや、ターンを描き、

交差しながら同じ斜面に入り乱れて滑っている。

この2点から考えても、傷害事故が頻発するのは当然の事かもしれない。

したがって、次のような対策が必要になってくる。

①スキー技術の習得とマナーの向上

スキーも競技の分野では厳しいルールに従って記録が競われる。しかし、レジャーの

傷害防止にあたっては、マナーの欠如が事故に結びついていることも、スキーヤー自身が自覚し、体力や技術に合ったスキーに心掛けることが大切である。

②正しいスキー指導

指導者はスキー技術を教えるとともに、マナーを教えることも大切な任務である。

また、事故発生時の予知能力を高めたり、対処能力を身につけるには、傷害の実態を理解し、必要なる救急法を習得することが指導者に求められている。

日赤救急員養成講習会開催

本年4月から救急法の改正

により、医師だけに認められていた心臓マッサージの処置が救急員にも出来るようになり、救急隊生法の正しい知識や技術の習得により、とっさの手当が命を救うことが可能となりました。

日程

講義 9月10日9時~17時

合宿 15日~17日の4日間

会場

厚木市総合福祉センター (小田急本厚木駅)

費用

一、〇〇〇円(7食付)

申込

8月28日まで県連事務局へ

## 総務部

総務部長 佐伯 英雄

今年度は総務理事が全員新人となり、皆様へのサービス低下も心配していましたが、協会をはじめ、会員の皆様の暖かいご理解とご協力によりまして、今年度の執行を無事完了させることが出来ました。

各担当理事も業務に慣れてきたとはいえ、まだまだご迷惑をお掛けする事も多いかと思っております。引き続きご指導をお願い申し上げます。

事務局からのお知らせ

現在、事務局には、阿部さんと、丸山さんの二人の事務局員が交替で、休日を除く月曜日から金曜日までの午後3時から7時まで事務受付をしております。

事務局員には、電話によるお問い合わせの受付なども行っておりますが、何しろスキーに関して「素人」です。お問い合わせに対して、十分な回答が出来ない事も有るかと思っております。勉強の意欲はありますので、今後ともご指導をお願いいたします。

## マスターズ大会の魅力

### スキーを愛した人達の集い(I)

熊谷 敏夫 (75歳)

95全日本マスターズ大会が3月1日から三日間、妙高の池の平スキー場で行われました。全国の熟達者が集うこの大会には、東京都連の山田さん(84歳)を筆頭に約五〇〇名が参加しました。

神奈川県から二四名の選手団

当県連からも、30歳代から70歳代の選手24名が参加し、素晴らしい活躍ぶりを見せつけ、入賞者が続々と出ました。

アルペン種目(GS)では、例年上位に位置する丸山禮子、田中正直に加え中岡玲子、前田惣一が二位、そして三位

三月一日の公開練習は、かやばコースで、雪の降りしきるなかのコースオープンでした。練習が終わり民宿での夕食には、出場者のほぼ全員が揃い、ビールなどを飲みながら、明日のコースのこと、スキーの手入れやスキー技術など話し合いながら和やかに楽しい一時を過ごしました。

三月二日は、かなりの降雪で視界が悪いなか、女子と男子60歳以上が全長980メートルのAコースで、男子30歳以上、60歳未満は全長1210メートルのBコースでそれぞれスタートしました。

三月三日は、第二戦で昨日とは違って変わった快晴で、白い雪面に立てられた赤と青の旗が太陽に映えて美しい光景でした。

この二日間の大会で、当県連選手は、上位にくい込む頑張りを発揮し、前述のような素晴らしい成績でした。

マスターズ大会の魅力

マスターズ大会は、競技会です。勝つことが目標ですが、私はもつと大切なことがあるように思います。それは、高年齢になっても大会に出場することに、おたがいに刺激しあい、そして次の大会のために有意義なオフシーズンを送る。さらに、スキーを通して多くの人と知り合い、その付き合いを大事にする。これが健康を保って生きがいのある毎日を送ることになると思います。

来シーズンは北海道の小樽市で開かれることに決まりました。まだ詳しいことは解りませんが、誘い合って皆でたのしく参加しましょう。



ペンリレー

マスターズ大会の楽しさとその魅力を皆さんに知って頂くため「マスターズ大会の魅力」のコラムを、今回から参加者から参加者へリレー執筆する方式にしました。ご期待ください。

各部だより

強化部

強化部長 山田 力

平成7年度、強化部事業は大別すると、大会事業・強化事業及び育成事業から成り、各種の行事が実施された。今年度の大会事業として、スノーボードを一戦、大回転競技、回転競技は各四戦の大会が各会場で実施された。

また、強化事業の一環として、四回にわたるジュニアキャンプ、三回のノルデック合宿、並びに国体特別選手強化合宿が行われる。

J強化 53国体へ向けた ジュニア強化(II)

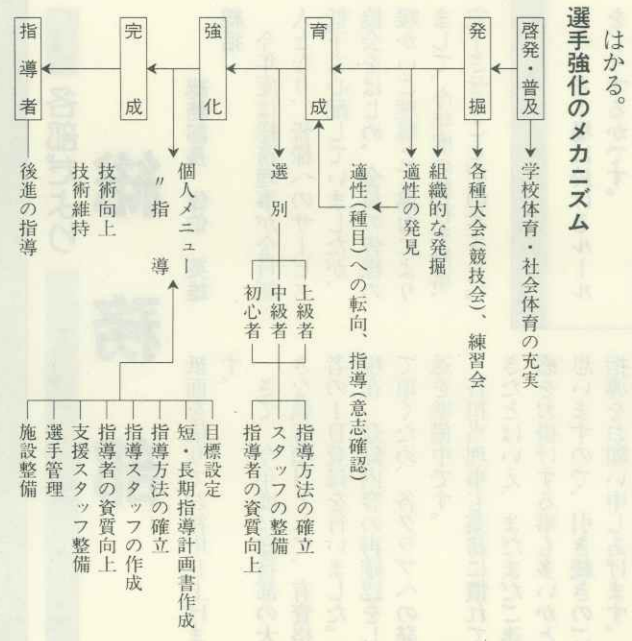
強化委員長 菊池 富士夫



前号に引き続き、現在進行中の選手強化の基本的な考えとメカニズムを紹介致します。

選手強化の将来は、野球やサッカーと同様に、各地区・各団体が丸ごとジュニア強化に努めなければ国体の選手強化の将来はあり得ない。

地域が一体となってこれらの考えを基盤にし、神奈川県内への向けて各種の施策が進められている今日のこの機会とメカニズムを大いに利用してもらい、県と各地域が一体となってジュニア選手を育てていく事が望ましいと考えております。



基本的な考え 一、目的 53国体に向けて、競技スキーを志す者が、意欲的・継続的に取り組める推進策を検討し、優秀な選手を連盟・企業など皆で強化育成していくシステムを確立するための条件整備を行う。

県総体

相模原市 市市 相模原市 市市 優勝 優勝 準優勝 三位

第46回、神奈川県総合体育大会冬季大会スキー競技会は、野辺山スキー場において、2月24日(金)から26日(日)、二十五の市、町から総勢五九五



名が参加して開催された。24日、体育館で開会式を行い、18時よりスキー場内の特設コースで、距離競技が行われた。

昨年の総合優勝した相模原は、どのクラスの選手も力走し、着実にポイントを重ねたかに思われましたが、厚木が予想以上に健闘し、この種目は優勝を分ける、三位に茅ヶ崎、そして川崎、大和、横浜という順の成績で第一日は終了した。

距離で厚木が圧勝 翌25日、距離競技と同じコースで継走競技は競われた。各チーム、大声援の中、七時半にスタート。

混戦の最終日 いよいよ最終日、県総体も華僑にはいり、大回転競技を閉じた。(飯塚)

検定記録

Table of official scores and records for various skiing events, including categories like '正指導員検定合格者', 'A級公認検定員合格者', and 'B級公認検定員合格者'.

競技記録

Table of competition records for events like '第53回神奈川県スキー選手権大会' and '第50回神奈川県スキー選手権大会'.



